

つなぐ

Vol.42

2021.3月



徐脈性不整脈の治療として、ペースメーカーやICD、CRTなどの植え込みデバイスの治療がある。この治療で難しいとされているのは、実は植え込みではなく植え込んだリードが断線や不具合を起こした時に抜去しなければならぬ場合だ。

ペースメーカーのリードは植え込まれている年数が長い場合は、静脈や心臓の壁に癒着を起こし牽引しても抜けない状態になる。以前は開胸術や開心術による摘出が行われていたが、先端からレーザーを発射できるレーザーシース、先端がドリルのように回転するシースなどを駆使し、カテーテルの技術でリード抜去ができる時代となった。

しかし、リード抜去術には、心タンポナーデ、血胸、創部出血、心損傷、弁損傷、塞栓症などの重篤な合併症を起こす可能性がある。リード抜去術を実施するためには、シースやデバイスに精通しより多くの経験を積んだ術者が求められる。

患者さんと共に不整脈と対峙するためには、デバイス植え込みから一貫通貫で治療を提供できなければならぬ。これからも患者さんに寄り添える病院を目指して医療に取り組んでいく。

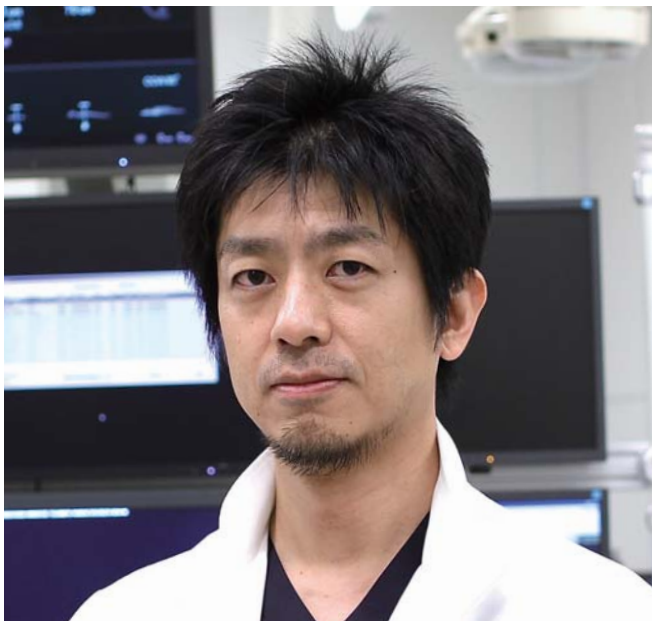


第51回

小倉循環器内科セミナー

2021年 4月27日(火) 18:00~19:00

座長 / 小倉記念病院 副院長 循環器内科主任部長 安藤 献児



01 【講演】

ガイドライン変更に伴う
周術期の抗血栓療法について

小倉記念病院 循環器内科 部長 兵頭 真



02 【講演】

抗血栓療法の周術期管理
「小倉プロトコール」について

小倉記念病院 外科 主任部長 藤川 貴久

参加方法



Zoomによる
web参加のみとなります!

zoomの事前登録は不要ですが、
事前登録しておくことでリマインドメールが届きます。

PCの場合

小倉記念病院ホームページから①病院案内→②市民公開講座・勉強会・研究会のご案内→③勉強会・研究会→④Zoomボタンをクリックで参加が可能になります。



スマホの場合

右記のQRコードを読み込んで
いただくと参加が可能になります。

